



ヒトってなんだろう？

ニシゴリラ剥製(所蔵:ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

2 【巻頭言】学ぶ楽しさを博物館で

企画展 7月13日(土)～8月25日(日)

3 サルとヒト -ヒトってなんだろう?-

企画展 10月5日(土)～11月10日(日)

3 ファインバーグ・コレクション展 -江戸絵画の奇跡-

4 【自然】コラム 風と水がつくる砂の紋様もんよう ふうもん(風紋とカレントリップル)

5 【人文】資料紹介 ペットブームと江戸時代の愛鳥家たち
コラム 「鳥取こちずぶらり」

6 【美術】新収蔵品紹介 菅楯彦筆《宴楽》
コラム 「すごい！」を楽しむ場を -“得るモノ”ってなんだろう?-

7 【山陰海岸学習館だより】3D映像「大地と海の物語」の公開

8 講座・観察会・毎週土曜はアートの日！



学ぶ楽しさを博物館で



我が国では、学校教育法が学校教育の基本原則を定めています。義務教育として国民の教育を行う各小・中学校では、国の定めた学習指導要領に沿って教育課程を編制し、子どもたちはそれに基づき、一律な教育を受けます。

私自身が小学校に入学した頃を思い出せば、その時期の学びは楽しいものであったように思い出されます。小さい頃は興味・関心が旺盛です。調査によれば、小学生の8割強が勉強は楽しいと答えています。が、中学、高校と学齢が上がるにつれて、その数値は低くなり、次第に勉強するのは学校だけで十分だと思ふ生徒の数が増えてくるといいます。そのことから、一律な教育が到達目標を設定しながらすべての子どもたちに学ぶ楽しさを与えることの難しさを感じます。そして、このような実態は、教育に携わる者の一人として大変残念でもあります。

ところで、デカルトは「我思う、ゆえに我あり」と言いました。哲学者に限らず、人間は生きているかぎり絶えず何らかの思考を行っています。それは時に職業上の創造的な事柄であり、また実生活における問題解決に係る事柄であり、さらには文学、音楽や美術、演劇などの芸術とふれあう際の思索でもあるでしょう。ある意味で思考は人生を豊かなものに行っているのだと思います。いつでも人間は考え続けながら生きており、考えることは人間が生きることと同義であるとも言えるでしょう。

人生の様々な場面で思考を行うためには、我々を取り巻くさまざまなものから学ぶことが必要です。勉強するのは学校だけで十分だと思ふようになる子どもたちも少なくありませんが、ともかく、人は学び続けるものなのです。そしてその学びは、他者の手助けによったり、自ら本を読んだり、今日ではインターネットから

情報を得たりと様々な様態へと広がっています。そうした中、私はみなさんに、生涯を通じた学びの場として博物館を加えていただければ幸いです。

孔子は「之を知るものは之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」と言っています。先年、ノーベル物理学賞を受賞された南部陽一郎博士は、このことばを「人は何かの目的を持ってものを知ろうとするのであるが、知そのものを楽しむ境地を大切にしたい」という意味を込め、母校の生徒たちに発信しておられます。

博物館は社会教育法に位置づけられている学習機関です。利用していただいているみなさんが自らの意志で学び、知の楽しみにより人生を豊かにしていただけるよう、職員一同、努力していきたいと考えています。

(館長 山内 有明)

「博物館で学びを楽しむ活動例」



自然分野・野外観察会
「トンボをとろう！in出合いの森」
〔平成24年8月19日(日)〕



美術分野・館内授業
「フナイタケヒコ展」
(鳥取市立醇風小学校1年)
〔平成25年2月22日(金)〕



人文分野・歴史講座
「弓矢をつくろう」
〔平成24年6月24日(日)〕

企画展 7月13日(土)～8月25日(日)

サルとヒト -ヒトってなんだろう?-



ハイロネズミキツネザル剥製(所蔵・写真提供:日本モンキーセンター)
体長(尾を除く)約13cm、体重約65gの小さなサル

ヒトってなんだろう?
本企画展では、ヒトとその近縁な動物であるサルの仲間の多様な姿を通して、この問題に迫ります。

ヒトやサルが属する霊長類の特徴として、親指が他の指と向き合い、物をつかめること、両目が正面を向き、立体視ができること、体重に対する脳の重さが重いこと、などがあります。初期の霊長類が進化したのは、地球全体が暖かく、花をつける被子植物が多様化した時代でした。彼らは熱帯雨林の



サヘラントロプス化石複製(所蔵・写真提供:群馬県立自然史博物館)
700万～600万年前の“最古の人類”

樹上で、花や果実、そこに集まる昆虫を餌にしており、枝をしっかりとつかむ手足、周りの枝や餌との距離を正確に測れる両目、その立体的な空間を認識し情報処理をする知能を発達させたと考えられています。器用な手先と良好な視力、そして高い知能を受け継いだサルたちは、多様な姿へと進化しました。小さなネズミキツネザル(右上写真)や大きなゴリラ(表紙写真)をはじめ、カラフルなサル、モヒカンヘアや口ひげなどの奇抜なファッションのサルなど、個性派ぞろいです。また姿かたちだけでなく、「社会」の多様性も霊長類の特徴です。夫婦のペアで暮らすものや一夫多妻、一妻多夫、そして複数の家族が集まった重層社会と呼ばれる構造を形成するものもいます。

さて、ヒトは700万年前ごろにチンパンジーとの共通祖先から枝分かれたとされます(左写真)。よくある

間違いですが、チンパンジーからヒトが進化したものではありません。チンパンジーもヒトも、それぞれ独自の道を同じ時間をかけて進化したものです。ヒトの進化について、古い教科書では猿人→原人→旧人→新人という直線的な形で説明がされていましたが、実際はそんなに単純ではありません。その時代その場所での環境に応じて、“野生動物”としてそれぞれに適応し、さまざまな方向への進化の枝分かれを繰り返してきているのです。

現代のヒト、ホモ・サピエンスは、それらの中から結果的に残った1本の枝です。それが今では、世界中の陸地に分布し、大規模な環境変化を引き起こしています。

ヒトっていったいなんだろう? 本企画展が、このことを改めて考えるきっかけになれば幸いです。

(学芸課 一澤 圭)

企画展 10月5日(土)～11月10日(日)

ファインバーグ・コレクション展 -江戸絵画の奇跡-

この秋、鳥取にアメリカから珠玉の日本絵画がやって来ます。アメリカのコレクター、ロバート・ファインバーグ氏が一代で蒐集したもので、俵屋宗達から酒井抱一、円山応挙、伊藤若冲、池大雅、与謝蕪村、そして葛飾北斎と、文字通り江戸絵画を代表する画家の作品が勢ぞろいします。このファインバーグ・コレクションの質の高さは広く知られていますが、一堂に展示されるのは初めてのことで、鳥取での

開催後はアメリカのメトロポリタン美術館、その後、パリのテルニスキ美術館に巡回します。

ここに掲載した作品は、鈴木其一(1796～1858)の「群鶴図屏風」です。其一は尾形光琳から酒井抱一へとつながる琳派の流れを汲み、江戸時代後期に近代的で斬新な作風を展開した画家です。本作も光琳の「群鶴図屏風」(フリア美術館蔵)を源泉として制作されたもので、金地に単純化した川と鶴の群れを描いた、琳派らしいデザイン的な構成となっています。光琳作品にくらべ、鶴の向きや頭の位置に変化がつけられ、より動きのある画面になっているのが特徴です。本作は其一の20代後半か

ら30代前半の作と考えられるもので、若き其一が偉大なる光琳の作品を積極的に学びながら、果敢にアレンジを加えた意欲作となっています。

ファインバーグ・コレクションには、狩野派や土佐派などの保守的な作品はほとんど含まれていません。かわりに、京の町衆や江戸の庶民に広く愛された、自由で生き生きとした作品群が並びます。そこには、江戸時代の人々が育てた文化の底力があらわれています。本展のタイトルである“江戸絵画の奇跡”とはまさに、外国からの直接的な影響を受けることなく200年続いた太平の世に花開いた、奇跡的な日本独自の文化の結晶を意味しています。選び抜かれた優品約90件を通じてみせる、多様で洗練された奇跡の煌めきを、ぜひこの機会にお楽しみください。

(美術振興課 山下 真由美)



鈴木其一「群鶴図屏風」 江戸時代・19世紀



ファインバーグ・コレクション

風と水がつくる砂の紋様(風紋とカレントリップル)

よく晴れた風のある日に鳥取砂丘に行くと、砂丘の表面にきれいな波状の模様をみることができます。これは風紋といって、風によって砂が運ばれてできるものです。扇風機の「強」よりも少し強い風速5m/秒ぐらいの風が吹くと砂が移動し、きれいな波模様ができます。この風紋をじっと見ているのと、風紋が少しずつ風下側へ移動することに気がつきます。砂が風上から風下に向かって、風紋の表面を移動しているためです。また、風紋の凸になっている部分(峰)をよく見るとその形が「へ」の字をしています。風紋の断面をみると「へへへへへへへ」こんな感じの形になっています。この「へ」の字の長く緩やかな斜面が必ず風上側、短く急な斜面が風下側になります。この

ことが分ると、その風紋ができた時の風向きを知ることができます。風の向きにあわせて、風紋の方向も変わるので、砂丘は行くたびに違った姿を見せてくれます。当館の常設展示室では、鳥取市気高町の砂浜にできた風紋の剥ぎ取り標本を展示しています(写真1)。ぜひこの風紋ができたときの風向きを当ててみてください。

このような砂の模様は風だけではなく流れる水によってもつくられます。川や海など流れのある場所に砂があると、砂が移動し風紋と同じような「へ」の字の波模様が砂の表面にできます(写真2)。風紋と同様、「へ」の字の長く緩やかな斜面が上流側になります。流れが遅い場合は、砂丘の風紋のような直線的な模

様になりますが、もう少し水の流れが速くなると、魚のウロコのような模様に変化します(写真3)。実は、同じ粒の大きさの砂であっても、水の流れの速さによって、できる模様は変わるのです。一方向の水の流れでできたこのような模様のことをカレントリップルと呼びます。

このような砂の模様は地層の中にも残ります(写真4)。地層は砂丘、湖、川、海など様々な環境でできますが、地層中に残されたこのような模様を調べることで、当時の水の流れの方向や強さを知ることができ、その地層がどのような場所でできたかを知る大きな手がかりとなります。

(学芸課 徳田 悠希)



写真1: 風紋のはぎとり標本(当館自然常設展示室)



写真2: カレントリップル(鳥取県岩美町牧谷日野谷川: 水流は右下から左上方向)

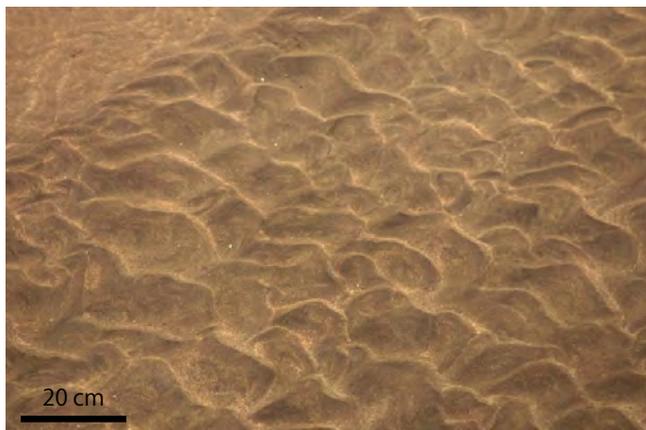


写真3: カレントリップル(鳥取県岩美町牧谷日野谷川: 水流は左下から右上方向)



写真4: 約2000万年前の地層中のカレントリップル(兵庫県香美町下浜)

ペットブームと江戸時代の愛鳥家たち

80年代半ば以降、日本ではペットブームと呼ばれる状況が続いています。平成22年(2010)の内閣府「動物愛護に関する世論調査」によると、ペットの飼育率は回答者の34.4%にもおよびます。ペットの中で最も多く飼育されているのは犬で、全体の58.6%を占め、次いで、猫30.9%、魚19.4%、鳥5.7%と続きます。しかし、この種別割合は30年前の昭和54年(1979)の調査では、犬46.1%、鳥37.6%、猫26.6%、魚11.2%であり、かつて全体の1/3を占めた鳥の飼育率だけが激減しています。

鳥の飼育の歴史は、日本列島では少なくとも1400年前まで遡ります。その後、飼い鳥の文化は、平安時代に貴族へ、鎌倉～室町時代に武士の間に普及し、江戸時代には庶民にまでおよび、手軽な娯楽として広く愛好されました。

江戸時代の鳥取でも、飼い鳥文化が花咲いていたことが当時の記録か

ら判明します。歴代藩主は様々な種類の鳥を所有し、鳥取城内に「御鳥部屋」と呼ばれる鳥小屋を設けていました(図参照)。初代藩主池田光仲は「白鳥」を、鳥取城のお堀で放し飼いにし(『御用人日記写』延宝4年(1676)8月19日条)、また、寛政年間(1789～1801)頃、藩主の分家である西館では舶来の九官鳥が飼育されていたことが知られます(『霜眉随記』)。

一方、庶民はホオジロ、ウグイス、アヒル(家鴨)、イソヒヨドリ、シャモ(軍鶏)などを飼育していたようです(『霜眉随記』)。このうち、タイ原産のシャモが鳥取に普及・流行するのは天保年中(1830～44)だそうです。その理由として、庶民の間に「闘鶏」が流行したこと、そして肉が美味であったことが挙げられています。

近年、鳥の飼育率の減少の影響からか、鳥取市内に唯一あった小鳥の専門店が店じまいしてしまいました。幕

末の鳥取城下にはすでに「小鳥屋」が2軒存在していましたが(『警備考』)、近年のペットブームの影で江戸時代以来の飼い鳥文化を支えた小鳥屋など伝統産業が衰微していることも知っておきたい現実です。

(学芸課 大嶋 陽一)



4棟あった鳥取城内の「御鳥部屋」

コラム

「鳥取こちずぶらり」ーデジタル化された古地図とモバイル端末を使って、鳥取城下を歩くー

鳥取市の中心市街地は、いまから約400年前に城下町として整備されたことに始まります。江戸時代の半ばまでには48町が確立し、全国でも有数の城下町として発展を遂げてきました。明治以降は、近代都市として変貌を遂げていきますが、町割りの基礎や町名など、そのままに残るところも多く、市民生活のなかに連綿として引き継がれています。

城下町鳥取の地名、町並み、神社仏閣などの歴史的な遺産を広く紹介し、地域に残る文化財に親しんでいただく新たな手法として、県立博物館では、江戸時代から現在まで、街の変遷が一目でわかるデジタル古地図のアプリケーション「鳥取こちずぶらり」を作っています。

これは昨年から関西の大学・企業

の研究者と博物館が共同で開発を進めているもので、従来からある紙の古地図とは違い、iPadやスマートフォンなどのモバイル端末に、鳥取藩が幕末に製作した高精度の城下町絵図などを表示させたものです。モバイル端末のGPS機能を使うことによって、古地図上に現在地を表示できるので、紙の古地図よりも迅速に、現在地を確かめることができます。この機能によって、たとえば、江戸時代にあった藩の施設や、水路・堀などが、思いも寄らない場所にあったことを発見でき、現在と比べながら、その変化を実感することができます。

昨年末には、アプリケーションの試作品を使ったワークショップを実施し、参加者の方から意見や要望をいただきました。そのアンケートには、「古地



ワークショップの様子(モバイル端末上に古地図が表示されている)

図上に自分の現在地が表示されるので、まるで江戸時代にいるかのような臨場感を味わうことができた」といった感想もありました。

今年もワークショップの実施を予定しており、平成25年度内にはアプリケーションを無料で一般公開できるように開発を進めています。

(学芸課 来見田 博基)

菅楯彦筆《宴楽》

近代大阪を代表する町絵師・菅楯彦（すが・たてひこ 1878～1963）は、江戸時代より続く大阪庶民の生活を表現した「浪速風俗画」の名手として知られています。楯彦は四条派の絵師・菅盛南の長男として鳥取に生まれ、大阪で育ち活躍した浪速気質の町絵師で、人々からは「楯彦さん」と親しみを込めて呼ばれてきました。四条派の写生体を基調に復古大和絵調の色彩を施した彼の画風は軽妙洒脱と評され、浪速情緒を色濃く表現しています。

一方で、古画、漢学、国学、有職故実、雅楽などを幅広く学んだ楯彦は、市中の賑わいや寺社の祭礼を正確に記録し続けたほか、江戸時代の文化人・木村兼葭堂を顕彰する祭りを催すなど、単に画家としての活動に留まらず、近代大阪の文化向上に尽力しました。

2012年度に収蔵した本作は、画面左上の書き込み「庚午／南呂／楯彦坐伯東／三朝之依山楼上／作此図時明月／照前川端流聴／深々聲」から、昭和5年8月に三朝温泉の旅館依山楼岩崎で描かれたことが分かります。楯彦は同年8月19日に母ツネを伴い倉吉を訪れ滞在しました。その際、山陰公民学校建設の為に自作を寄贈したほか、9月27日には倉吉の打吹公園内有親館で個展を開催しています。

本作では、催馬楽を興じる人々の様子を淡い色彩で描くとともに、「我家」と「更衣」のうたを記しています。催馬楽は、唐楽・高麗楽などの音楽の旋律に詩をあててうたう民間歌謡に発し、平安時代に宮廷歌謡として広まり、以後宴席・年中行事等



菅楯彦《宴楽》昭和5年、紙本着色、61.0×88.3cm

で歌われ、今日までに合計61曲が残されています。本作は、和歌をはじめ幅広い教養を身につけていた楯彦が表現する芸術的特徴を示すとともに、郷里へ戻った際に描いた貴重な作品といえるでしょう。

今年、楯彦が亡くなって50年の節目の年にあたります。県立博物館では、平成26年2月22日から4月6日の日程で大規模な回顧展を開催します。作品や資料に関する情報をお持ちの方は、是非お知らせ下さい。

（美術振興課 林野 雅人）

コ ラ ム

「すごい!」を楽しむ場を —“得るモノ”ってなんだろう?—



2012年5月26日。「らくがきばんざい!」と題したワークショップを開催。博物館前庭にて、クレヨンに水性ペン、絵の具を使って思う存分らくがきしていただく企画である。終了後、自分の背丈よりも大きなキャンバスを運びにくそうに持ち帰る親子の姿があった。

お祭りやイベントの一角で、“〇〇体験”といったブースを目にすることがあります。様々な作業をコンパクトに体験でき、出来上がった作品を持ち帰ることができるという点では、当館でのアートイベントもこの発想に近いところはあります。しかし私たちは、こういった「体験」に加えて、心底「すごい!」を感じられる企画を提供したいと思っています。この感嘆詞はよく耳にする言葉ですが、実のとは



2012年9月1日。世界を舞台に活躍するアニメーション作家 山村浩二氏をお招きし、代表作品《頭山》の上映や、制作にまつわるお話を聞く。この日を心待ちにするファンも多く、講義後、握手やサインを求めて、山村氏の前には、長い来場者の列ができていた。

ろ、私たちは芸術のジャンルでどれだけの「すごい!」に出会えているでしょうか。圧倒的な表現力や技術力、他に類を見ないアイデアに直接触れる機会は、実際そう多くはありません。ですが、時として本当の「すごい!」に遭遇すると、永く記憶に留まることはもちろん、価値観の変容や意欲の喚起にも繋がる貴重な体験になることと思います。いま、私たちに必要なのは、お土産的なモノよりも、巨大なら



2012年10月9日。米子市在住のアーティスト梶村自得氏とともに県西部の小学校を訪れ、銅板の打ち出しに挑戦する。金槌で叩いて凹凸をつけ、コンロで表面を炙って変色させ、革紐を通す。子どもたちは、手づくりのネックレスを誇らしげに首に掛けて下校していた。

くがきを描けたり、アーティストの創作の秘密に触れたりといった、心に残る「すごい!」を体感できる環境ではないでしょうか。

美術振興課は、当館がそのような場になることをめざし、参加者が“得るモノ”とは何かについての分析・検証を重ね、当館におけるアートイベントをさらに充実させていくよう計画しています。どうぞご期待ください。

（美術振興課 山本 亮）

3D映像「大地と海の物語」の公開



山陰海岸ジオパークは日本海の形成を物語る貴重な地形・地質が特徴で、その大地に生きるさまざまな動植物や人々の暮らしを含めて、幅広い魅力にあふれている地域です。世界にも認められた山陰海岸ジオパークの魅力を、さらに多くの方々に知っていただくために、山陰海岸学習館では迫力ある3D映像を製作し、2013年1月14日から館内の体験学習室(3Dシアター)で上映しています。

この3D映像は、当館学芸員らの監修のもとで新しく撮影されたもので、博物館資料やCGなども活用して、山陰海岸ジオパークのテーマである「日本海形成の物語」をわかりやすく紹介しています。また、モーターパラグライダーによる空中撮影や海中での潜水撮影の映像を通して、広大な鳥取砂丘のでき方や浦富海岸の複雑な海食地形についても学ぶことができます。特に、これまであまり知られていない浦富海岸の海中については、臨場感あふれる3D映像としたことで、実際に海の中に潜って複雑な海底地形や多様な生きものを観察しているような感覚を体験することができます。

山陰海岸ジオパークの魅力を伝える3D映像をご覧いただくことで、長い年月をかけてつくられた「大地」と「海」が、私たちに多くの恵みをもたらしていると感じていただけるはずです。学校教育での総合的な学習の時間や公民館事業などで山陰海岸ジオパークをテーマとする際には、3D映像でさらに充実した山陰海岸学習館をご活用ください。

(山陰海岸学習館 和田 年史)

〔3D映像の上映について〕

上映場所：山陰海岸学習館 体験学習室(3Dシアター)

定員：1回につき50名

上映時間：約20分

定期上映時刻

①一土日祝日・ゴールデンウィーク・夏休み期間中：

10:00、11:00、13:00、14:00、15:00、16:00(計6回)

定期上映時刻

②一上記以外の平日(開館日)：11:00、14:00(計2回)

*上記以外の時間帯では、依頼に応じて団体向けに上映します。

■ 普及活動一覧(平成25年度上半期)

《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキング ～二上山、歴史と植物探訪～」

4月28日(日)午前9時～正午

場所／二上山(岩美町)

対象：小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員：30名(先着順) 申込開始：4月14日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「魚の赤ちゃん調べ～春の地曳網調査体験～」

5月26日(日)午前9時～正午

場所／熊井浜(岩美町)

対象：小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員：30名(先着順) 申込開始：5月12日(日)～、電話のみ

《自然講座》

「見てさわって、海藻を知ろう！」

6月16日(日)午前10時～正午

場所／岩美町立渚交流館(岩美町)

対象：小学生以上～一般(小学生は保護者同伴)

定員：30名(先着順)

申込開始：6月2日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「山陰海岸ジオツアー～殿ダム、雨滝コース～」

6月23日(日)午前9時～午後3時

場所／殿ダム、雨滝など(鳥取市)

対象：小学生以上～一般(小学生は保護者同伴)

定員：30名(先着順)

申込期間：6月9日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「夜の渚でスナガニの観察」

7月6日(土)午後7時～9時 場所／熊井浜(岩美町)

対象：小学生～一般(小学生は保護者同伴) 参加費：200円

定員：30名(先着順) 申込開始：6月22日(土)～、電話のみ

《野外観察会》

「磯の観察会」

7月21日(日)/27日(土)/28日(日)午前9時～午後3時

場所／熊井浜(岩美町)および岩美町立渚交流館

対象：小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員：各回30名(抽選)

申込開始：6月16日(日)～30日(日)、往復はがき

《野外観察会》

「大谷海岸の石を調べてみよう！」

8月4日(日)午前10時～午後2時

場所／大谷海岸(岩美町)および岩美町立渚交流館

対象：小学生～一般(小学生は保護者同伴) 参加費：200円

定員：30名(先着) 申込開始：7月21日(日)～、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館(電話：0857-73-1445)へ

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館 San'in Kaigan Nature Museum

■入館料：無料

■開館時間：9時～17時

■休館日：毎週月曜日

(祝日の場合は翌平日が休館日)

国民の祝日の翌日(土、日、祝日は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話：0857-73-1445

FAX：0857-73-1446

http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/



INFORMATION お知らせ

講座・観覧会・毎週土曜はアートの日! LECTURE・FIELD STUDY・EVENT

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門(毎週土曜はアートの日)

2013 4 APR.	《ギャラリートーク》 コレクション展Ⅰ	■4月6日(土) 14:00~15:00 / 美術常設展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《アートシアター》 「クリスト:制作中」	■4月13日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■中学生以上~一般 / 250名 / 無料
	《アートシアター》ウィリアム・クライン監督作品 映画「イン&アウト・オブ・ファッション」	■4月20日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 座・ベスト展 -すわる人の表現 10景-	■4月27日(土) 14:00~15:00 / 近代美術展示室 ■小学生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料
2013 5 MAY.	《ワークショップ》 落書きばんざい! (春編)	■5月4日(土) 10:00~15:00 / 前庭 ■幼児・小学生(小3以下は保護者同伴) / 定員なし / 無料
	《スペシャルアートシアター》 映画「ヴィダール・サスン」	■5月11日(土) 14:00~15:40 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《天体観望会》 春の星を見る会	■5月12日(日) 18:30~20:30 / 前庭 ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 定員なし / 申込不要
	《ワークショップ》 触覚で味わう立体作品	■5月18日(土) 14:00~15:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 10名 / 無料 ※申込受付5月4日(土)~(電話のみ)
2013 6 JUN.	《歴史講座》 伯耆往来をあるく(湖山~白鬼)	■5月19日(日) 9:30~13:00 / 市内 ■一 般 / 20名 / 無料 ※申込受付4月26日(金)~(電話のみ、先着順)
	《歴史講座》 歴史発見!「鳥取こずぶらり」でまち歩き	■5月25日(土)・6月22日(土) 13:00~16:00 / 市内・会議室 ■一 般 / 20名 / 無料 ※要申込~(電話のみ先着順)
	《スペシャルアートシアター》 映画「はじまりの記憶 杉本博司」	■5月25日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《ワークショップ》 カメラをもってまち歩き in 鳥取	■6月1日(土) 13:00~16:00 / 会議室・鳥取市内 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込受付5月18日(土)~(電話のみ)
2013 7 JUL.	《アートシアター》(東京藝大大学院生による修了作品集) 「GEIDAI ANIMATION①」	■6月8日(土) 14:00~15:50 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《ワークショップ》 雨の日を楽しもう!	■6月15日(土) 14:00~16:00 / 前庭・会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 未定 ※申込受付6月1日(土)~(電話のみ)
	《自然講座》 顕微鏡で楽しむミクロの世界	■6月16日(日) 10:00~12:00 / 会議室 ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込み:5月30日(木)~(電話のみ)
	《ワークショップ》 もっと刷りたい! 版画のこと	■6月22日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■小学生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料 ※申込受付6月8日(土)~(電話のみ)
2013 7 JUL.	《アートシアター》 映画「100人の子供たちが列車を待っている」	■6月29日(土) 14:00~15:10 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《アートシアター》(東京藝大大学院生による修了作品集) 「GEIDAI ANIMATION②」	■7月6日(土) 14:00~15:50 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《スペシャルトークセッション》 「国際美術展について語る」	■7月13日(土) 14:00~16:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《アートシアター》 映画「ピリペンコさんの手づくり潜水艦」	■7月20日(土) 14:00~15:40 / 講堂 ■小学生以上~一般 / 250名 / 無料
2013 7 JUL.	《講座(自然・歴史コラボ企画)》 石器をつくろう!	■7月21日(日) 10:00~15:00 / 会議室・前庭 ■小学高学年 / 20名 / 100円 ※申込受付6月21日(金)~(往復ハガキ申込・抽選)
	《ワークショップ》 線の森を探検!(ビニールでトンネルをつくる)	■7月27日(土) 14:00~16:00 / 前庭 ■幼児・小学生(小3以下は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込受付7月13日(土)~(電話のみ)

2013 7 JUL.	《野外観覧会》 川原の石をしらべよう!	■7月27日(土) 10:00~15:00 ■鳥取市河原町和奈見の千代川川原(午前)用瀬中央公民館(午後) ■小・中学生(小学生は保護者同伴) / 30名 / 無料 ※申込受付7月11日(木)~(電話のみ)
	《演奏会》 アフリカンミュージック・コンサート	■7月28日(日) 13:00~15:00 / 講堂 ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴) / 250名 / 申込不要 ※企画展「サルとヒト」関連
2013 8 AUG.	《スペシャルワークショップ》 アニメーションづくりに挑戦!	■8月3日(土) 13:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 未定 ※申込受付7月20日(土)~(電話のみ)
	《特別講演会》 とっとりサル学-世界をリードする日本の霊長類研究-	■8月10日(土) 13:30~15:30 / 講堂 ■小学生~一般(小学生以下は保護者同伴) / 250名 / 申込不要 ※企画展「サルとヒト」関連
2013 8 AUG.	《ギャラリートーク》 テーマ展示Ⅲ	■8月10日(土) 14:00~15:00 / 近代美術展示室 ■小学生以上~一般 / 無料
	《自然講座》 自作天体望遠鏡で星を見よう!	■8月10日(土) 14:00~16:00 観測19:00~21:00 / 会議室・前庭 ■小・中学生(小学生は保護者同伴) / 20名 / 実費(未定) ※申込受付7月25日(木)~(電話のみ)
2013 8 AUG.	《天体観望会》 夏の星を見る会	■8月10日(土) 19:00~21:00 / 前庭 ■小学生~一般(小学生以下は保護者同伴) / 定員なし / 申込不要
	《歴史講座》 お金をつくろう!	■8月11日(日) 10:00~12:00, 13:30~15:30 / 会議室 ■小学校4~6年生とその保護者 / 20名 / 無料 / 100円 ※申込受付7月12日(金)~(往復ハガキ申込・抽選)
2013 8 AUG.	《講演会》 鳥取藩二十二士と明治維新	■8月17日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 250名 / 無料 / 申込不要
	《ワークショップ》 内容未定	■8月17日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込受付8月3日(土)~(電話のみ)
2013 8 AUG.	《自然講座》 夏休みの標本調べ相談室	■8月18日(日) 10:00~17:00 / 会議室 ■小・中学生(小学生は保護者同伴) / 定員なし / 申込不要
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会-猿の登場する民話	■8月18日(日) 14:00~15:00 / 歴史民俗常設展示室 ■一 般 / 30名 / 入館料
2013 8 AUG.	《野外観覧》 トンボをとろう! in 出合いの森	■8月24日(土) 10:00~12:00 / とっとり出合いの森(鳥取市桂見) ■幼児・小・中学生(小学生以下は保護者同伴) / 30名 / 要申込
	《アートシアター》アンコール上映 「エリック・カールコレクション」	■8月24日(土) 14:00~ / 講堂 ■幼児~一般 / 250名 / 無料
2013 8 AUG.	《アートシアター》(東京藝大大学院生による修了作品集) 「GEIDAI ANIMATION③」	■8月31日(土) 14:00~15:50 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《アートシアター》新・日曜美術館シリーズ 「伊藤若冲 -奇は美なり-」	■9月7日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■中学生以上~一般 / 250名 / 無料
2013 9 SEP.	《歴史講座》(2回連続、①鳥取藩財政史、②鳥取藩と寺社) はじめて学ぶ鳥取藩の歴史	■9月8日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■一 般 / 40名 / 無料 ※申込受付8月8日(木)~(電話のみ、先着順)
	《アートシアター》新・日曜美術館シリーズ 「尾形光琳-紅白梅図に秘めたメッセージ-」	■9月14日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■中学生以上~一般 / 250名 / 無料
2013 9 SEP.	《報告会・講演会》 鳥取県の神社と棟札	■9月15日(日) 14:00~16:00 / 講堂 ■一 般 / 250名 / 無料 / 申込不要
	《スペシャルトークセッション》 榎忠さんと語る	■9月21日(土) 14:00~16:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
2013 9 SEP.	《歴史講座》 ガラス勾玉をつくろう!	■9月23日(月・祝) 13:30~15:30 / 会議室 ■小学校4~6年生とその保護者 / 20名 / 100円 ※申込受付8月16日(金)~(往復ハガキ申込・抽選)
	《ワークショップ》 落書きばんざい!(秋編)	■9月28日(土) 14:00~16:00 / 前庭 ■幼児~一般 / 30名 / 無料 ※申込受付9月14日(土)~(電話のみ)

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。
※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース No.15

平成25年(2013年)3月22日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp



JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」緑コース

「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ

ループ麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)

「④鳥取城跡」下車すぐ

砂丘・湖山・賀露方面行

「西町」下車約400m

市内回り岩倉・中河原方面行

「わらべ館前」下車約600m



■JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

MORRIX 株式会社 モリックスジャパン
鳥取市商栄町203-6
TEL 0857-23-3641

引越しは日通
0120-154022